

倶多楽の火山活動解説資料（平成26年9月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1～5、図6 - ）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上概ね50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

19日に国土交通省北海道開発局、24日に北海道の協力を得て上空からの観測を実施しました。日和山山頂爆裂火口、大湯沼爆裂火口及び地獄谷爆裂火口の噴気や火口の状況に特段の変化はありませんでした。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、各火口の地表面温度分布に変化はありませんでした。

・ 地震及び微動の発生状況（図6 - ）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図6 - ）

GNSS連続観測²⁾では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

2) GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

次回の火山活動解説資料（平成26年10月分）は平成26年11月11日に発表する予定です。



図 1 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（ 9 月 21 日、414m 山遠望カメラによる ）

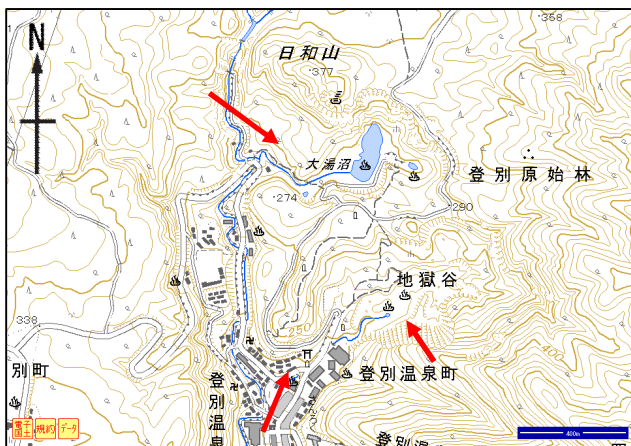


図 2 倶多楽 周辺図と赤外熱映像及び写真の
撮影方向（矢印）



図 3 倶多楽 全景 南西側上空（図 2 - 方向）
から撮影

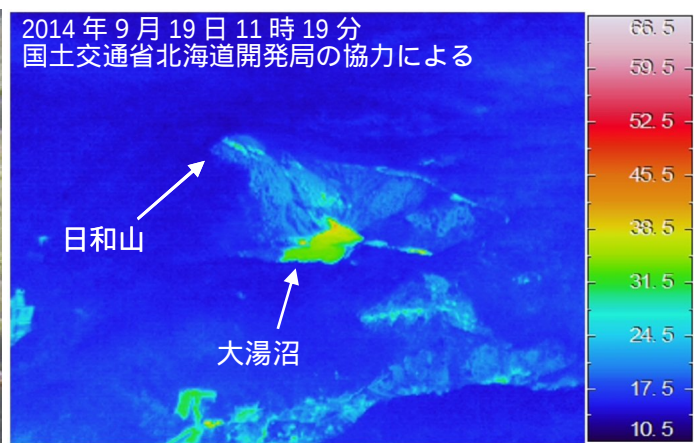


図 4 倶多楽 日和山周辺の地表面温度分布 南東側上空（図 2 - 方向）から撮影

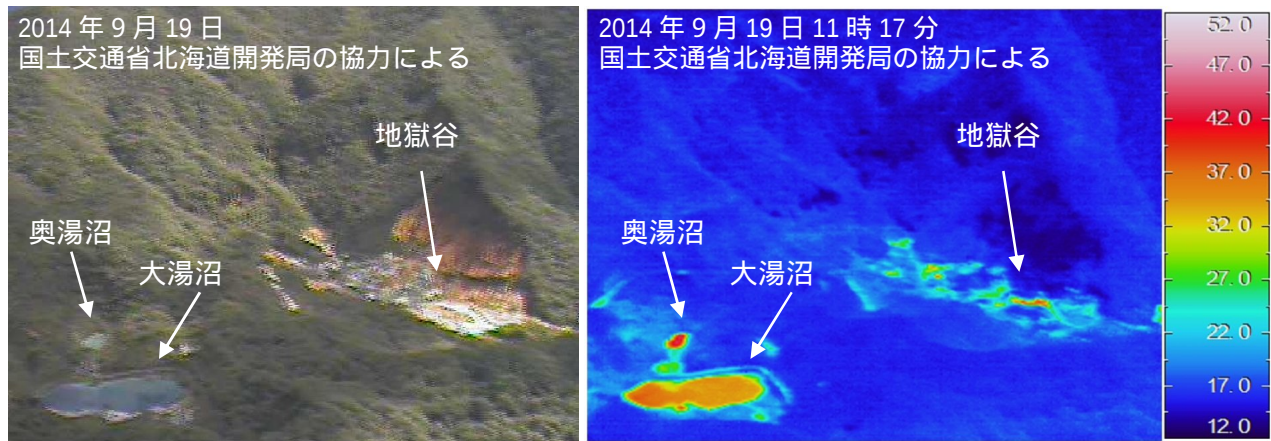


図 5 倶多楽 大湯沼・地獄谷周辺の地表面温度分布 北西側上空（図 2 - 方向）から撮影

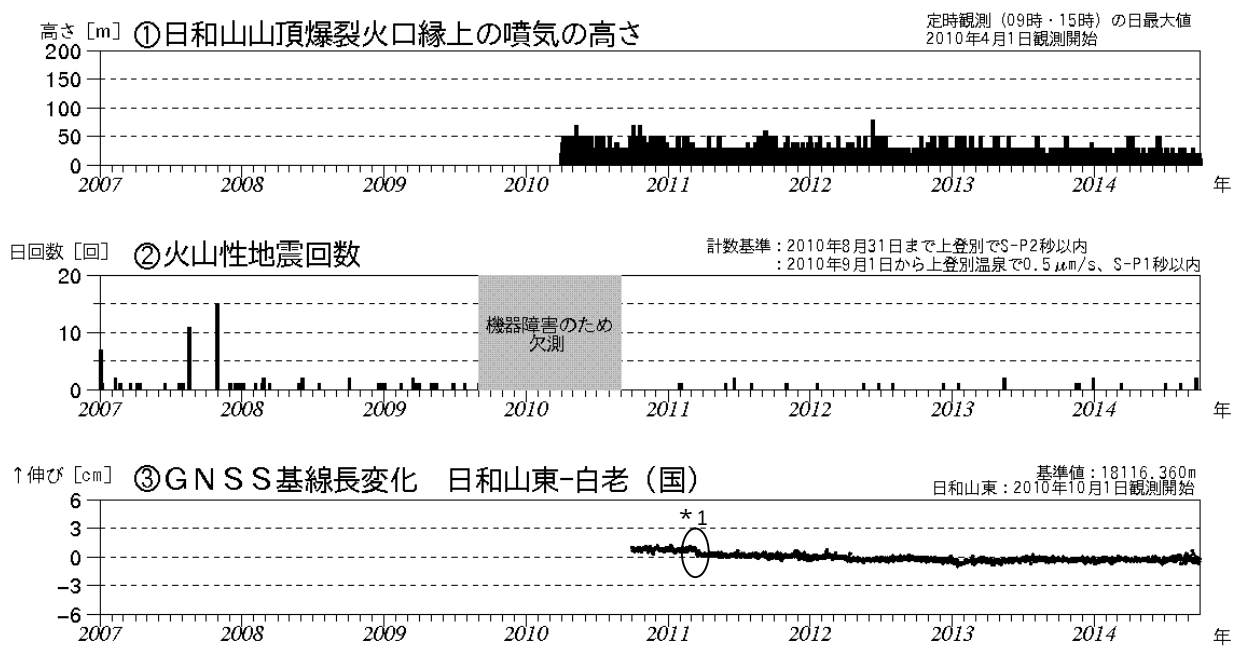
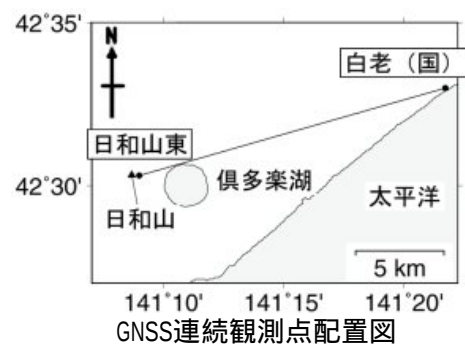


図 6 倶多楽 火山活動経過図（2007年 1 月～2014年 9 月）

- ・ のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています
- ・ (国): 国土地理院

* 1: 楕円内の変動は、2011年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響によるものであり、火山活動によるものではありません



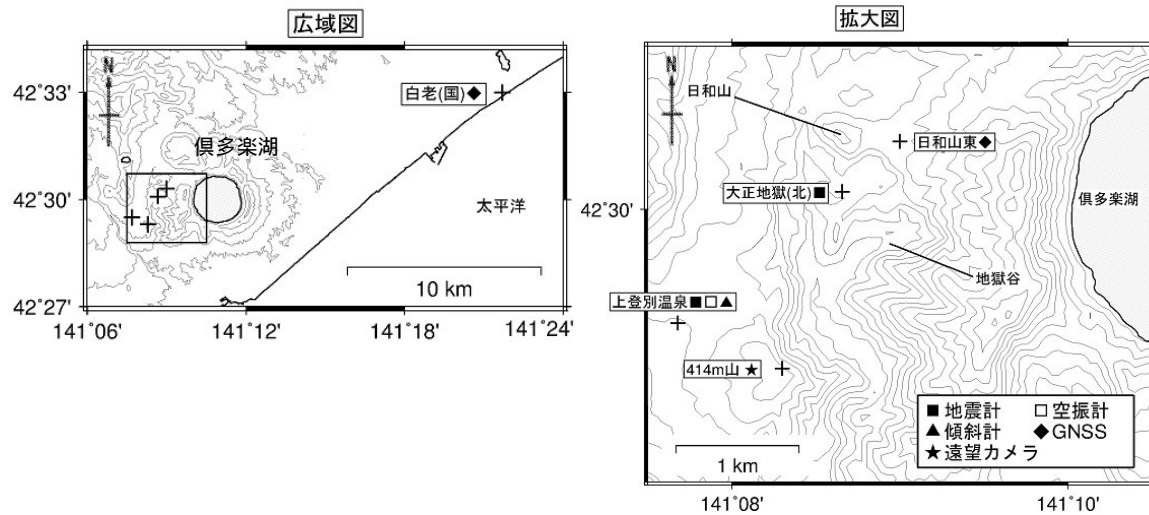


図 7 倶多楽 観測点配置図

広域図内の口は拡大図の範囲を示します

+ 印は観測点の位置を示します

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています

(国): 国土地理院

(北): 北海道大学